

2024年度

国際IT・CAD科

1年生

授業計画（シラバス）

シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R1-K02			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Job hunting I 就職 I					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	三浦 千尋	
授業の目的						
就職活動を行い、内定を得るためには、就職試験対策に加え、採用システムの理解、業界研究が必須である。本科目では、世界でも独特な日本の採用システムを理解し、その準備を行う。製造業を中心に業界研究を行ったうえで、求人票の見方を学び、自ら志望する会社を選択できるようにする。また、履歴書の作成、面接練習も行う。						
授業の到達目標						
1. さまざまな媒体で就職情報を得ることができる。 2. 履歴書を作成することができる。 3. 面接マナーを理解し、実践できる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了時課題		10%	10%	5%	25%	
修了時実技		10%	10%	5%	25%	
随時課題		10%	10%	10%	30%	
授業態度				20%	20%	
使用テキスト・教材						
教員が適宜作成するプリント						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. オリエンテーション	2		
2. 日本の就職活動	2		
3. 業界研究			
3-1. 製造業について	2		
3-2. 就労ビザ取得の条件	2		
3-3. ポータルサイトの使い方	2		
3-4. 求人票の見方	4		
4. 履歴書の作成	6	○	
5. 面接			
5-1. 面接マナー	2		
5-2. 面接ロールプレイ	4	○	○
6. 会社見学・講話	4		
<b>その他</b>	<b>関連科目</b>		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			

シラバス (授業概要)		年度	2024 年度		
		科目コード	R1-K05		
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Business Writing 1 ビジネス文書作成 I				国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	前期	必修	30	1	三浦 千尋
授業の目的					
<p>専門学校での学習や就職後の業務において、わかりやすい文章を書く能力は必須である。学生は、話し言葉と書き言葉を区別し、自分が伝えたいことを相手に理解してもらえる表現を学び、文章にしていく能力を身につける。本科目では報告書と履歴書の作成を通し、自分の文章を客観的に読む目を養い、ブラッシュアップしていく。また、専門科目の学習さらに就労時に必要となる製造系の専門用語も併せて習得していく。</p>					
授業の到達目標					
<p>(1) 読み手を意識した、読みやすい字を書くことができる。  (2) フォーマットに従い、報告書を書くことができる。  (3) 自分の文章を読み直し、自分で修正することができる。  (4) 製造系の専門用語を理解し、活用することができる。</p>					
授業方式					
対面	<input type="radio"/>	ライブ型	<input type="radio"/>	オンデマンド型	
授業形態					
講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション	
ロールプレイ		PBL		反転授業	
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	<input type="radio"/>
その他					
成績評価の方法					
評価項目	評価観点				配点計
	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了課題	15%	15%	10%	40%	
修了試験	5%	5%		10%	
随時課題	10%	15%	15%	40%	
受講態度			10%	10%	
使用テキスト・教材					
『留学生・技能研修生のための使える日本語』					



シラバス (授業概要)		年度	2024 年度					
		科目コード	R1-K07					
時間数は45分換算								
授業科目名					学科・コース			
Business Etiquette ビジネスマナー					国際 IT・CAD 科			
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
1	後期	必修	30	1	安部 珠恵			
授業の目的								
日本での就職活動に必要なマナーを身につけ、面接に対応したコミュニケーション能力を磨く。ビジネスマナーを学びながら日本の社会のしくみを理解する。								
授業の到達目標								
① 日本のビジネスで重視される人物像を理解している ② ビジネスの身だしなみ、立ち居振る舞い、言葉遣いをすることができる。 ③ 面接を想定した場面でふさわしい会話、所作ができる								
授業方式								
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型				
授業形態								
講義		演習	○	実験・実習・実技				
アクティブ・ラーニング								
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション				
ロールプレイ	○	PBL		反転授業				
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業				
その他								
成績評価の方法								
評価項目		評価観点			知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
		ロールプレイング	%	%				
自己PR文		%	30%	20%	%	50%	%	%
		%	%	%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%	%	%
使用テキスト・教材								
浜松未来総合専門学校「就職の手引き」 講師作成資料プリント 演習問題								

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. ビジネスマナー			
オリエンテーション 第一印象の法則	2		
正しい挨拶 自己紹介	2		
ビジネス身だしなみのルール スーツチェック	2	○	○
会社説明会参加のマナー	2		
2. 言葉遣い			
間違ったアルバイト言葉	1		
クッション言葉の使い方	1		
敬語の使い方	2		
就職活動での会話ロールプレイング	2		
3. 文書のマナー			
メールの書き方	2		
履歴書の書き方	2	○	○
自己PR文の書き方	2	○	○
郵便物のマナー 実践練習	2		
4. 面接練習			
オンライン面接ロールプレイング	2		
面接ロールプレイング	2		
面接テスト	4	○	○
<b>その他</b>	<b>関連科目</b>		
この科目は、実務経験のある教員が担当する科目である。			

シラバス (授業概要)		年度			2024 年度	
					科目コード	
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Business Mail ビジネスメール					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	後期	必修	30	1	三浦 千尋	
授業の目的						
就職後に必要となるビジネススキルである、ビジネスメールの作成を学習する。						
授業の到達目標						
ビジネスの場面に適したメールのやり取りをすることができる。						
授業方式						
対面	<input type="radio"/>	ライブ型	<input type="radio"/>	オンデマンド型		
授業形態						
講義	<input type="radio"/>	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	<input type="radio"/>	調査学習		教えあい授業	<input type="radio"/>	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了課題		20%	20%		40%	
随時課題		20%	10%	20%	50%	
授業態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
教員が準備するプリントを使用						





シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R1-K09			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Business communication 1 ビジネスコミュニケーション I					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	30	1	金田 雅美	
授業の目的						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予測不可能な異文化衝突に対処していこうとする態度を育てること。</li> <li>・学生が自分と他者との協働によって問題解決策を検討していくための社会(人間)環境を作り出す能力を育成する。</li> </ul>						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化衝突に出会ったときに、相手の価値観等に理解を示し衝突を回避する思考が身についている</li> <li>・他者との協働作業ができる</li> </ul>						
授業方式						
対面	<input type="radio"/>	ライブ型	<input type="radio"/>	オンデマンド型		
授業形態						
講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="radio"/>	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL	<input type="radio"/>	反転授業		
対話・議論型授業	<input type="radio"/>	調査学習		教えあい授業	<input type="radio"/>	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
授業態度		10%	20%	20%	50%	
発表		10%	20%	10%	40%	
出席状況				10%	10%	
使用テキスト・教材						
ビジネスコミュニケーションのためのケース学習 職場のダイバーシティで学び合う						



シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R1-K11			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Advanced Japanese 1 応用日本語 I					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	選択	60	2	神谷・三浦・青嶋	
授業の目的						
第二言語である日本語を用いて、専門学校で専門知識を学び、就職活動を行っていきけるように、日本語能力の向上を目指す。本科目では総合教科書を用い、読解力、語彙力、文法力をバランスよく身につけていく。また、教材を通し、一般的な日本文化についても習得していく。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語能力試験 N2 レベルの日本語力を身につける。</li> <li>著名な日本人、その文化について基本的な知識を得る。</li> </ul>						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
随時テスト		20%			20%	
期末テスト		30%	10%		40%	
課題への取り組み				20%	20%	
授業態度				15%	15%	
出席率				5%	5%	
使用テキスト・教材						
『The Great Japanese 初中級』 『The Great Japanese 中上級』						
授業内容・授業計画						

内 容	時間	課題 試験	評価
1. 卑弥呼・宮崎康平	2		
2. 聖徳太子	2		
3. 紫式部／清少納言	2	○	△
4. 織田信長	2		
5. 本田宗一郎	2		
6. 和田カヅ	2	○	△
7. 白石義明	2		
8. 孫正義	2		
9. 秋元康	2	○	△
10. 三遊亭圓朝	2		
11. 千利休	2		
12. 黒澤明	2	○	△
13. 草間彌生	2		
14. 五嶋みどり	2		
15. 夏目漱石	2	○	○
16. 村上春樹	2		
17. 俵万智	2		
18. 長谷川町子	2	○	△
19. 宮崎駿	2		
20. 石ノ森章太郎	2		
21. 高橋尚子	2	○	△
22. イチロー	2		
23. 野口健	2		
24. 杉原千畝	2	○	△
25. 佐藤栄作	2		
26. 萱野茂	2		
27. 新渡戸稲造	2	○	△
28. 藤田哲也	2		
29. 山中伸弥	2		
30. 石黒浩	2	○	○
<b>その他</b>		<b>関連科目</b>	
		応用日本語Ⅱ 日本語試験対策Ⅱ	

シラバス (授業概要)					年度	2024 年度
					科目コード	R1-K13
Measures for Japanese Language Qualifications 1 日本語資格対策 I					国際 I T ・ C A D 科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	選択	60	2	青嶋 晶子	
授業の目的						
日本語能力試験 (JLPT) は就職活動や就労ビザ申請において日本語能力を証明する重要な試験である。本科目では、日本語能力検定試験 N2 の合格を目指し、試験対策を行う。						
授業の到達目標						
1. 日本語能力試験 N2 の合格 2. 卒業時までの N1 合格に向けた中上級の知識の定着						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		P B L		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価観点		知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計	
評価項目		30%			30%	
確認テスト		30%	10%		40%	
期末テスト				20%	20%	
授業態度				10%	10%	
出席率						
使用テキスト・教材						
『日本語能力試験問題集 N2 語彙必修パターン』 『JLPT 文字語彙 N3 ポイント&プラクティス』 『テーマ別中級から学ぶ日本語』						



シラバス (授業概要)					年度	2024 年度	
					科目コード	R1-K15	
時間数は45分換算							
授業科目名					学科・コース		
Japanese Culture 1 日本文化 I					国際IT・CAD科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
1	前期	選択	30	1	青嶋 晶子		
授業の目的							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本文化や社会を学び、日本で活動する力を育てる</li> <li>・協働学習を通してコミュニケーション力の向上を図る</li> <li>・日本社会の基本的な知識を学び、日本語力の底上げを図る</li> </ul>							
授業の到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の伝統文化、地域社会について日本語で話ができる</li> <li>・どのような分野の話題にも関心を持つことができる</li> </ul>							
授業方式							
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型			
授業形態							
講義	○	演習	○	実験・実習・実技			
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○		
ロールプレイ		PBL	○	反転授業			
対話・議論型授業	○	調査学習	○	教えあい授業	○		
その他							
成績評価の方法							
評価項目		評価観点			配点計		
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度			
確認テスト		30%	10%		40%		
授業態度				10%	10%		
出席率				10%	10%		
発表			20%	20%	40%		
使用テキスト・教材							
『人と社会をつなぐ日本語 中級』							





シラバス (授業概要)					年度	2024 年度		
					科目コード	R1-K21		
					時間数は45分換算			
授業科目名					学科・コース			
IT Basic Skills 1 I T 基礎技術 I					国際 I T ・ C A D 科			
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
1	前期	必修	60	2	高橋 恵子			
授業の目的								
パソコンの基本操作を日本語で習得し、知識を深める。 日本情報処理検定協会「表計算」検定合格を目標として操作技術の向上をはかる。								
授業の到達目標								
Word/Excel/PowerPoint の基本操作を習得する。 日本情報処理検定協会 「表計算3級」以上合格を目標として操作技術の向上をはかる。								
授業方式								
対面	○	ライブ型		オンデマンド型				
授業形態								
講義		演習	○	実験・実習・実技				
アクティブ・ラーニング								
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション				
ロールプレイ		P B L		反転授業				
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○			
その他								
成績評価の方法								
評価項目		評価観点			知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
課題					10%	10%	10%	30%
期末試験					50%			50%
授業態度							15%	15%
出席率							5%	5%
使用テキスト・教材								
『留学生のためのかんたん Word/Excel/PowerPoint 入門』 技術評論社 『情報処理技能検定試験 表計算 模擬問題集』 日本情報処理検定協会								



シラバス (授業概要)		年度		2024 年度	
		科目コード		R1-K23	
時間数は45分換算					
授業科目名				学科・コース	
Presentation Skills 1 プレゼンテーション技法 I				国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
1	後期	必修	30	1	青嶋 晶子
授業の目的					
<p>・プレゼンテーションは、専門科目の授業や就職活動、仕事等、ありとあらゆる場所で必要となる能力である。本科目では、自分の考えをわかりやすく相手に伝えるためのプレゼンテーションスキルを習得する。プレゼンテーション制作の流れに沿って情報収集、資料作成を行い、日本語でのプレゼンテーションパフォーマンス力を向上させる。</p>					
授業の到達目標					
<p>・自分の意見、考えを相手に明確に説得力のあるプレゼンで伝えることができる。</p>					
授業方式					
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	
授業形態					
講義	○	演習	○	実験・実習・実技	
アクティブ・ラーニング					
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○
ロールプレイ		PBL	○	反転授業	
対話・議論型授業	○	調査学習	○	教えあい授業	
その他					
成績評価の方法					
評価項目		評価観点			配点計
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	
授業態度		10%	20%	20%	50%
発表		10%	10%	25%	45%
出席率				5%	5%
使用テキスト・教材					
『クローズアップ日本事情 15』					

## 授業内容・授業計画

内 容	時間	課題 試験	評価
1. オリエンテーション プレゼンとは?	2		
2. UNIT3 日本の旅を楽しもう 情報を正確に伝える			
2-1. 日本交通と観光名所	2		
2-2. 日本の観光地を選び、調べる	2		
2-3. 発表準備	2		
2-4. 発表	2	○	○
3. UNIT11 地球のためにできること 自分の意見を伝える			
3-1. 環境問題について	2		
3-2. 興味のある環境問題についての取り組みを調べる	2		
3-3. 発表準備	4		
3-4. 発表	2	○	○
4. UNIT10 前進を続ける科学技術 相手を引き付けるプレゼン			
4-1. 現在の科学技術と近未来の科学技術	2		
4-2. どんな機能を持ったロボットを作りたいか	2		
4-3. 発表準備	4		
4-4. 発表	2	○	○
<b>その他</b>		<b>関連科目</b>	

シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	T1-K28			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Human Resources 1 人的マネジメントと組織 I					国際観光・ビジネス科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	後期	必修	30	1	中村 真	
授業の目的						
<p>社会人に求められる基礎的な力を習得する。          人間の行動の仕組みを理解し、日常生活におけるセルフコントロールと、他人との関わり方を効果的なものにする方法を学び身に付けていく。</p>						
授業の到達目標						
<p>セルフコントロールを高める方法を知る。          依存ではなく自立した状態を作れる。          否定的な見方から客観的・肯定的視点に移行できる。          協働の概念を理解し、プロジェクトチームの一員として行動できる。</p>						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
レポート			10%	20%		30%
途中課題			10%	20%		30%
ワークショップ実践			5%	15%	10%	30%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
・プリント資料、演習課題（講師作成）						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. オリエンテーション：チームビルディングワーク	2		
2. 互いを知る / 自分を知る	2	○	
3. 自分を満たす / 5つの基本的欲求と責任の概念	2	○	
4. 欲求充足度の高めかた（プランニング）	2	○	
5. 自分の願望・相手の願望 / 上質世界	2	○	
6. 気分には左右されないセルフコントロール/行動のシステムと全行動	2	○	
7. 人間関係破壊の習慣 / 構築の習慣	2	○	
8. チームワークを体感するワークショップ	2	○	△
9. 心の天秤の釣り合わせ方	2	○	
10. キャリアプランニングを作成する	2	○	
11. 人間のシステム / まとめ	2	○	
12. セルフカウンセリングと問題解決話法	2	○	△
13. ケーススタディ：同僚の話聞く、自分の問題解決をする	4	○	
14. 自分の取扱説明書作り	2	○	○
<b>その他</b>	<b>関連科目</b>		

シラバス (授業概要)					年度	2024年度
					科目コード	R1-K30
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Sales Management 1 営業マネジメント I					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	後期	必修	30	1	山田 穎二	
授業の目的						
<p>マネジメントとは「組織に成果をあげさせるもの」。組織（CAD）の使命を知り、組織の使命から顧客の求めている商品を作り、価格や販売方法など総合的に考え利益について考えます。「誰に・どのような価値を・どのようにして提供するか」を習得するために考察します。</p>						
授業の到達目標						
<p>(1) 正しい日本語で記述できる  (2) マネージメントの基本を習得できる  (3) 製造業にとってのマネージメントを習得できる  (4) マネージメントにおける商品を知ることができる</p>						
授業方式						
対面	<input type="radio"/>	ライブ型	<input type="radio"/>	オンデマンド型		
授業形態						
講義	<input type="radio"/>	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	<input type="radio"/>	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
定期テスト（筆記）			40%			40%
随時テスト（筆記）			50%			50%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
なし						





シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R1-K32			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Algorithm アルゴリズム					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	選択	30	1	三浦 千尋	
授業の目的						
アルゴリズムは、プログラミングを行う上で基礎となる重要な考え方である。はじめてプログラミングを学習する学生にも取り組みやすいように、ビジュアル的にわかりやすいScratchを用いて、変数、配列、サーチ、ソート等、アルゴリズムの基本を学ぶ。また、フローチャートを読んでプログラムの流れを理解したり、フローチャートを作成したりできるようにする。						
授業の到達目標						
(1) アルゴリズムを理解するのに必要な用語を理解し、説明することができる。 (2) コンピュータに実行させる処理の流れを考え、フローチャートで表すことができる。 (3) フローチャートを読んで、プログラムを書くことができる。 (4) 自分が作ったプログラムについて、処理を説明することができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了試験 (筆記&実技)		20%	20%		40%	
随時テスト (筆記)		20%			20%	
随時課題		10%	10%	10%	30%	
受講態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
講師作成プリント						



シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R1-K33			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Machinaly Control Foundation 機械制御基礎					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	宮木 孝	
授業の目的						
<p>アルゴリズムの授業で学んだフローチャートの技術を micro:bit によるプログラミングにより実現する。プログラミングの基本を学びながら、ものづくりに活かせるプログラム作成を学習する。創造性を発揮するプログラミングが体験できるSTEM教育を目指す。</p> <p>実習では、各種センサーを用いてプログラムによって動きをコントロールするものづくり演習を行ない、身の回りで日常化されている組込み型プログラムの理解を深めていく。</p>						
授業の到達目標						
<p>(1) プログラムを記述・実行するための手順を理解し、説明できる。</p> <p>(2) プログラムに必要な機能を理解し、説明できる。</p> <p>(3) しくみを考え、プログラムとして表現できる。</p> <p>(4) プログラム中の誤りを発見し、修正することができる。</p> <p>(5) 問題点を把握し、解決策をみつけて、問題を解決することができる。</p>						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		PBL		反転授業	○	
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了時テスト(筆記)		40%			40%	
課題			40%	10%	50%	
受講態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
・micro:bit ではじめるプログラミング (オライリー・ジャパン)						

<b>授業内容・授業計画</b>			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. micro:bitの基本	1		
2. micro:bitの機能			
2-1. ボタンスイッチ	1		
2-2. タッチセンサー	1		
2-3. 加速度センサー	1		
2-4. 地磁気センサー	1		
2-5. 無線通信機能	1		
2-6. 温度センサー	1		
2-7. 光センサー	1		
3. micro:bitで作品を作る	4		
4. micro:bitで通信する	4		
5. 制作課題	10	○	○
6. 作品発表	4	○	○
<b>その他</b>		<b>関連科目</b>	
この科目は、実務経験のある教員が担当する科目である。		・ アルゴリズム	

シラバス (授業概要)					年度	2024年度
					科目コード	R1-K35
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Control Programming 1 制御プログラミング I					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	前期	必修	30	1	岡田 靖志	
授業の目的						
リレーシーケンスの基本回路を理解し、シーケンス制御の基礎を習得する。一人1台の実習ボードを使用し、配線して動作確認をする実習を行う。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リレーの構造がわかる。</li> <li>・シーケンス制御の基本回路を理解し、シーケンス図が書ける。</li> <li>・基本的なシーケンス回路が設計出来、シーケンス図を見ながら配線できる。</li> </ul>						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
評価項目						
修了時テスト (筆記)		50%			50%	
実技テスト		40%			40%	
受講態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
テキスト：リレーとシーケンサ 教材等：リレーシーケンス実習機材						



シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R1-K37			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Basic Drafting 基礎製図					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	60	2	岡田 靖志	
授業の目的						
CAD技術者は図面を描き、読むことができる知識が必要不可欠である。ここでは、JIS規格に従い、機械製図の基礎的な知識・方法、及び立体表現に必要な図学の基礎知識、製作図の作成についての知識を習得し、CAD技術者としての基礎を身につける。						
授業の到達目標						
(1) 製図のJIS規格を理解している。 (2) 立体を、投影法を用いて平面で表現できる。 (3) 平面図を、立体的にとらえることができる。 (4) 最適な寸法表記ができる。 (5) 機械要素について名称と特徴を理解することができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業	○	
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了時テスト(筆記)		20%	20%		40%	
中間時テスト(筆記)		20%	10%		30%	
課題		10%	10%		20%	
受講態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JIS機械製図 第6版(森北出版)</li> <li>・ 機械製図 練習ノート</li> <li>・ 三角定規とコンパス</li> <li>・ CAD利用技術者試験2次元公式ガイドブック</li> </ul>						





シラバス (授業概要)				年度	2024 年度	
				科目コード	R1-K38	
				時間数は45分換算		
授業科目名				学科・コース		
Manufacturing Technology 製造技術				国際IT・CAD科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	宮木 孝	
授業の目的						
モノづくりに必要な測定器、工具、加工機械の種類や使用方法を、実習を行ないながら習得する。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノギス、マイクロメータの使い方がわかる。</li> <li>・各種工具の用途を理解し、適切に選択し使用することが出来る。</li> <li>・ボール盤、ノコギリ盤等の基本的な加工機械の安全な使い方を習得する。</li> </ul>						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
修了時テスト (筆記)			60%			60%
随時テスト (筆記)			30%			30%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
テキスト：ゲンバの日本語<製造業>						



シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R1-K39			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Machinaly Computer Aided Desing_Foundation CAD基礎					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	90	3	山田 隆博	
授業の目的						
<p>昨今、ものづくりにおいて、CADは欠かせないツールとなっている。 この授業では、世界標準となっているCADソフト Autodesk 社のAutoCAD（2次元）を使用して、CADによる図面作成ができることを目指す。</p>						
授業の到達目標						
<p>(1) 2次元CAD（AutoCAD）の基本的な操作を習得する。 (2) 図面作成に必要な三面図の考え方を理解し、投影図が実際に描けるようにする。 (3) 基本的な機械製図の読み方を習得する。</p>						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業	○	
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了時テスト（課題）		50%			50%	
課題		40%			40%	
受講態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
<ul style="list-style-type: none"> <li>『これからはじめる AutoCAD の本』（技術評論社）</li> <li>演習課題（オリジナルプリント）</li> </ul>						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. AutoCAD のインストール	2		
2. 画面操作・基本操作	2		
3. コマンド操作			
線分コマンド（絶対、相対、極座標）	2		
オブジェクトスナップ	4		
確認プリント	4		
円コマンド、移動・複写コマンド	2		
確認プリント	4	○	
長方形、ポリゴン、分解コマンド	2		
デバイダ、オフセットコマンド	4		
確認プリント	4		
トリム、延長コマンド	2		
回転、鏡像、長さ変更コマンド	4		
確認プリント	6	○	○
配列複写（矩形、円形）コマンド	2		
尺度変更、ストレッチコマンド	4		
確認プリント	4		
グリップを使ったコマンド	2		
画層について	2	○	
各種設定（寸法、文字）	4		
三面図作図を CAD で作図する	6		
寸法、文字の記入方法	4		
4. 機械図面作図	20	◎	◎
<b>その他</b>		<b>関連科目</b>	
この科目は、実務経験のある教員が担当する科目である。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎製図</li> <li>・ 機械CAD応用</li> <li>・ 機械制御応用</li> </ul>	

シラバス (授業概要)				年度	2024 年度	
				科目コード	R1-K41	
時間数は45分換算						
授業科目名				学科・コース		
Information Literacy 情報リテラシー				国際IT・CAD科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	高橋 恵子	
授業の目的						
Windowsの基本的な機能を理解し、設定やカスタマイズができるようになること、ハード、ソフト両面でのトラブルに対応できるようになることを目的とする。						
授業の到達目標						
パソコン、インターネット利用の「操作や知識」を得ると同時にトラブルや事件を知り、復旧できるようになること、身を守る手段を知ること为目标とする。 基本的な法律の知識も触れ、「上手な活用」と「生きる力」を養うことも目標とする。						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習		実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		PBL		反転授業	○	
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了試験		30%			30%	
随時試験		20%			20%	
受講態度				20%	20%	
レポート/課題		30%			30%	
使用テキスト・教材						
『ファーストステップ ITの基礎』(近代科学社)						



シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R1-K43			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Qualification Test Measures 1 資格検定対策 I					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
1	通年	必修	30	1	山田 隆博	
授業の目的						
CADを利用するための知識を持ち、さらに図面を正しく理解してCADを利用した作図を効率的にこなすことができる技能を証明できる試験制度として、2次元CAD利用技術者試験がある。このファーストステップとして「基礎」ランクがある。就職で有利にたつ資格を得るために、合格をめざす。						
授業の到達目標						
(1) CADシステムの知識と機能を理解している。 (2) CADシステムのプラットフォームについて理解している。 (3) 製図の知識を理解している。 (4) 図形の特徴を理解している。 (5) 2次元CAD利用技術者試験基礎に合格することができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
検定試験 (IBT)		20%	10%		30%	
課題 (Forms)		40%	20%		60%	
受講態度				5%	5%	
出席状況				5%	5%	
使用テキスト・教材						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CAD利用技術者試験2次元公式ガイドブック</li> <li>・ やさしい機械図面の見方・描き方 (オーム社)</li> <li>・ 機械製図 練習ノート</li> <li>・ 三角定規とコンパス</li> </ul>						





2024年度

国際IT・CAD科

2年生

授業計画（シラバス）

シラバス (授業概要)					年度	2024 年度		
					科目コード	R2-K03		
時間数は45分換算								
授業科目名					学科・コース			
Job hunting 2 就職Ⅱ					国際IT・CAD科			
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員			
2	後期	必修	20	1	三浦 千尋			
授業の目的								
本格化する就職活動の中で内定を得るために、エントリーシート、履歴書、面接、とそれぞれのフェーズを突破していく能力を身に着ける。								
授業の到達目標								
1. 面接において、質問の意図をくみ、答えることができる。 2. 企業情報を正確につかみ、履歴書、面接に反映することができる。								
授業方式								
対面	○	ライブ型		オンデマンド型				
授業形態								
講義	○	演習		実験・実習・実技				
アクティブ・ラーニング								
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション				
ロールプレイ	○	PBL		反転授業				
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○			
その他								
成績評価の方法								
評価項目		評価観点			知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
修了時実技					10%	20%	10%	40%
随時実技					10%	20%	10%	40%
授業態度							20%	20%
使用テキスト・教材								
なし								

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. オリエンテーション	2		
2. 履歴書ブラッシュアップ	4		
3. 面接			
3-1. 面接の意図	2		
3-2. 回答づくり	6		
3-3. ロールプレイ	6	○	○
<b>その他</b>	<b>関連科目</b>		
※実務経験のある教員が担当する科目である。	就職Ⅰ 就労準備		

シラバス (授業概要)					年度	2024 年度	
					科目コード	R2-K04	
時間数は45分換算							
授業科目名					学科・コース		
Work Preparation 就労準備					国際IT・CAD科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	後期	必修	20	1	三浦 千尋		
授業の目的							
就職活動の結果として内定を得たら、留学生は在留資格変更許可申請を行ない、在留資格を「留学」からいわゆる「就労」のビザに変更する必要がある。本科目では、出入国在留管理局に申請する在留資格変更許可申請の書類準備を行なう。							
授業の到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 申請書のフォームに必要な事項を入力することができる。</li> <li>2. 就労する会社に対して申請理由書を作成することができる。</li> <li>3. 履歴書を作成することができる。</li> </ol>							
授業方式							
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型			
授業形態							
講義	○	演習		実験・実習・実技			
アクティブ・ラーニング							
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション			
ロールプレイ		PBL		反転授業			
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業			
その他							
成績評価の方法							
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
この科目は認定科目のため成績評価はありません							
使用テキスト・教材							
在留資格変更許可申請書（出入国在留管理局の定型フォーム） 申請理由書の書き方（独自プリント） 履歴書用紙（独自フォーム）							



シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R2-K06			
時間数は45分換算						
授業科目名				学科・コース		
Business Writing 2 ビジネス文書作成Ⅱ				国際IT・CAD科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	30	1	三浦 千尋	
授業の目的						
<p>ビジネスシーンにおいて、文章を読んだり作成したりする場面が非常に多い。本科目では、業務を円滑に遂行していくためのビジネス文書作成技術を学ぶ。就職後すぐに作成する機会が訪れる報告書の作成を軸に、各種ビジネス文書の内容、提出のタイミング、事実と意見の表現方法の違いを学び、相手に伝わる、わかりやすい文書を作成する知識と技術を習得する。さらに、業務で使用する専門用語を正しく理解し、文書に取り入れることができるようにする。</p>						
授業の到達目標						
<p>(1) 各種ビジネス文書の目的と内容が理解できる。  (2) 各種フォーマットに合わせて、文書を作成することができる。  (3) 適切な表現を使い、相手にとってわかりやすい文書を作成することができる。  (4) 専門用語を正しく理解し、使用することができる。</p>						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
修了課題			15%	15%	10%	40%
修了試験			5%	5%		10%
随時課題			10%	15%	15%	40%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
『ゲンバの日本語応用編 製造業』						
『ゲンバの日本語単語帳 製造業』						





シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R2-K10			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Business Communication 2 ビジネスコミュニケーションⅡ					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	60	2	夏目 靖子	
授業の目的						
日本での就職活動で、内定獲得のために必要な考え方、心構え、礼儀作法等を身につけ、日本の社会で選ばれ、役立ち、喜ばれ、活躍できる人財になるための基礎・基本を学ぶ。						
授業の到達目標						
(1) 就職活動に必要なマナーを身につけ、きちんとした挨拶ができる。 (2) 就職活動で実施される面接試験で、自分の働く意欲・熱意を伝えることができる。 (3) 応募企業から内定(オファー)をいただくことができるようになる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習	○	教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
修了時テスト(筆記)			30%			30%
随時テスト(筆記)			20%			20%
課題(実技含む)			30%			30%
受講態度(日常観察点)					5%	5%
出席状況					15%	15%
使用テキスト・教材						
演習課題(オリジナルワークシート)						



シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R2-K12			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Advanced Japanese 2 応用日本語Ⅱ					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	選択	30	1	三浦 千尋	
授業の目的						
第二言語である日本語を用いて、日本社会で働き、生活していくための日本語力を身に着ける。本科目では、上級レベルの教材を使用し、ビジネスレベルの語彙力、文法力、読解力をバランスよく習得していく。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語能力試験 N1 レベルの日本語力を身につける。</li> <li>・上級レベルの日本語を理解し、運用することができる。</li> </ul>						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
随時テスト		20%			20%	
期末テスト		30%	10%		40%	
課題への取り組み				20%	20%	
授業態度				15%	15%	
出席率				5%	5%	
使用テキスト・教材						
『テーマ別 上級で学ぶ日本語』						
『テーマ別 中級から学ぶ日本語』						

<b>授業内容・授業計画</b>				
	内 容	時間	課題 試験	評価
	0. オリエンテーション	1		
	第1課 しる	1		
	第2課 いたわる	2	○	
	第3課 ならう	2		
	第4課 よみとる	2	○	
	第5課 さばく	2		
	第6課 うやまう	2	○	
	第7課 ふせぐ	2		
	第8課 もてなす	2	○	
	第9課 よびかける	2		
	第10課 えらぶ	2	○	
	第11課 いかす	2		
	第12課 つなぐ	2	○	
	第13課 たのしむ	2		
	第14課 きたえる	2		
	第15課 いきる	2	○	○
<b>その他</b>		<b>関連科目</b>		
		応用日本語 I 日本語試験対策 II		

シラバス (授業概要)					年度	2024 年度	
					科目コード	R2-K14	
Measures for Japanese Language Qualifications 2 日本語資格対策Ⅱ					国際IT・CAD科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	通年	選択	60	2	三浦 千尋		
授業の目的							
日本語能力試験 (JLPT) は就職活動や就労ビザ申請において日本語能力を証明する重要な試験である。本科目では、日本語能力検定試験 N1 の合格を目指し、試験対策を行う。							
授業の到達目標							
・ 日本語能力試験 N1 の合格							
授業方式							
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型			
授業形態							
講義	○	演習		実験・実習・実技			
アクティブ・ラーニング							
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション			
ロールプレイ		PBL		反転授業			
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○		
その他							
成績評価の方法							
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
確認テスト			30%	%	%	30%	
期末テスト			30%	10%	%	40%	
授業態度			%	%	20%	20%	
出席率			%	%	10%	10%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
			%	%	%	%	
使用テキスト・教材							
『日本語能力試験問題集 N1 語彙必修パターン』							

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. オリエンテーション	2		
2. クラス分けテスト	4		
3. テストフィードバック	2		
4. 基礎知識	12	○	
5. 練習問題	20	○	
6. 実習演習	12	○	○
7. 模擬試験	8		
<b>その他</b>		<b>関連科目</b>	
浜松未来総合専門学校オリジナルの統一試験の結果により、クラス分けを行う。		応用日本語Ⅱ 日本語資格対策Ⅰ	

シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R2-K16			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Japanese Culture 2 日本文化Ⅱ					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	60	2	三浦 千尋	
授業の目的						
<p>より日本文化に親しみ、理解するための上級レベルの日本語を学ぶ。          本科目では、応用日本語Ⅱの授業で使用するテキスト『上級で学ぶ日本語』のワークブックを用い、習得した語彙、文法を駆使し、さらに一歩進んだ音声や読み物に触れる。また、内容理解に必要な日本の文化風習、日本人の考え方も併せて習得していく。</p>						
授業の到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本文化風習、日本人の考え方についての知識が得る。</li> <li>2. 難解な日本語に接した場合、自ら調べ、意味を理解することができる。</li> </ol>						
授業方式						
対面	<input type="radio"/>	ライブ型	<input type="radio"/>	オンデマンド型		
授業形態						
講義	<input type="radio"/>	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク		プレゼンテーション	<input type="radio"/>	
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	<input type="radio"/>	調査学習		教えあい授業	<input type="radio"/>	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了試験		15%	15%		30%	
随時試験		15%	15%		30%	
随時課題		10%	10%	10%	30%	
授業態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
『上級で学ぶ日本語 ワークブック』 『中級から学ぶ日本語 ワークブック』						





シラバス (授業概要)		年度			2024 年度	
		科目コード			R2-K22	
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
IT Basic Skills 2 I T 基礎技術 II					国際 I T ・ C A D 科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	1	高橋 恵子	
授業の目的						
Excel 関数操作方法を習得し、会計用語等の日本語の知識を深める。 日本情報処理検定協会「表計算」検定合格を目標として操作技術の向上をはかる。						
授業の到達目標						
日本情報処理検定協会 「表計算3級」以上合格を目標として操作技術の向上をはかる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		P B L		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
課題		20%	10%	10%	40%	
期末試験		40%			40%	
授業態度				10%	10%	
出席率				10%	10%	
使用テキスト・教材						
『情報処理技能検定試験 表計算 模擬問題集』 日本情報処理検定協会						



シラバス (授業概要)					年度	2024 年度
					科目コード	R2-K24
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Presentation 2 プレゼンテーション技法Ⅱ					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	30	1	青嶋 晶子	
授業の目的						
日常業務において必要な「伝える力」を実践的に習得する。						
授業の到達目標						
効果的なスライド作りができるようになる。 自分という人物について伝え、五感を通して相手に訴えかける方法を身につける。 与えられたテーマで決められた時間スピーチできる力を身につける。						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技	○	
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価観点			知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
評価項目						
レポート			10%	20%		30%
途中課題			10%	20%		30%
発表			5%	15%	10%	30%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
プリント資料、演習課題（講師作成）						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
オリエンテーション：プレゼン定義と講座目的	2		
テーマ1 自分の好きな言葉を紹介する	2		
発表準備	2	△	
発表準備	2	△	
発表	2		○
テーマ2 自分のおすすめのものを勧める	2		
発表準備	2	△	
発表準備	2	△	
発表	2		○
テーマ3 勉強がやる気にならない時の改善方法	2		
発表準備	2	△	
発表準備	2	△	
発表	2		○
その他	関連科目		

シラバス (授業概要)					年度	2024 年度	
					科目コード	R2-K25	
時間数は45分換算							
授業科目名					学科・コース		
Business Administration 経営学概論					国際IT・CAD科		
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員		
2	通年	必須	30	1	小野 哲		
授業の目的							
<p>製品を設計・生産する上で必要となる関連知識を総合的に学習する。 特に、近年後工程を意識した製品設計、コストを意識した設計業務が求められており、益々幅広い知識が求められている。 製造業全般に関わる「言葉」を理解し、世界で通用する業務知識を習得する</p>							
授業の到達目標							
<p>製造業に関わる日本語を理解できるようにする 製造業に携わる者として工場の骨格（注文・人・金・モノ・設備・情報）を理解し、工場の運用業務、管理業務を知ることによって社会人としての知識を身に着ける また、最新技術についての事例紹介／解説を行ない、世の中の方向性を理解する</p>							
授業方式							
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型			
授業形態							
講義		演習	○	実験・実習・実技			
アクティブ・ラーニング							
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○		
ロールプレイ		PBL		反転授業			
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業			
その他							
成績評価の方法							
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
修了時テスト（筆記）			30%	10%		40%	
随時テスト（筆記）			20%			20%	
課題				10%	10%	20%	
受講態度				10%	10%	20%	
使用テキスト・教材							
<p>工場のしくみ 日本実業出版社 自作講義資料</p>							



シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R2-K26			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Marketing マーケティング					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必修	30	1	鈴木 加絵	
授業の目的						
マーケティングは、企業及び他の組織がグローバルな視野に立ち、顧客との相互理解を得ながら、消費者の求めている商品を作り、価格や販売方法などを決める総合的な考えを指します。「誰に、どのような価値を、どのようにして提供するか」を習得するために考察します。						
授業の到達目標						
(1) 正しい日本語で記述できる (2) マーケティングの基本を習得できる (3) 製造業にとってのマーケティングを習得できる (4) マーケティングにおける商品を知ることができる						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク	○	プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
定期テスト① (筆記)		30%			30%	
定期テスト② (プレゼンテーション)		10%	10%	10%	30%	
調査レポート		5%	15%	10%	30%	
受講態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
なし						

**授業内容・授業計画**

内 容	時間	課題 試験	評価
1. マーケティングが必要とされる理由	2		
2. マーケティングミックス	6	○	
2-1 商品			
2-2 価格			
2-3 流通経路			
2-4 販売方法			
3. 製造業にとってのマーケティング	6	○	
3-1 商品			
3-2 料金や価格			
3-3 市場			
3-4 販売促進活動			
3-5 流通			
4. マーケティングリサーチ	12	○	○
4-1 考察			
4-2 実査調査			
4-3 レポート作成			
4-4 調査報告			
5. ものづくり・コトづくり	4	○	○
5-1 商品のライフサイクル			
5-2 サービスを分析する			
<b>その他</b>		<b>関連科目</b>	
※実務経験がある教員が担当する科目である。			



シラバス (授業概要)		年度			2024 年度	
		科目コード			R2-K27	
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Financial Management 財務管理					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	後期	必須	30	1	朝倉 将貴	
授業の目的						
日本の企業に就職する際にライフプランニング、タックスプランニング等の基礎知識を理解していることが求められる。まずは、自分の将来設計について考え、税金、社会保険料、控除等について理解することが目的である。						
授業の到達目標						
給料明細を参考に、税金、社会保険、各種控除等の意味を理解する。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型	○	
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ	○	PBL	○	反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了試験		15%	15%		30%	
随時試験		15%	15%		30%	
随時課題		10%	10%	10%	30%	
授業態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
随時、プリント配布。						





シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R2-K29			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Human Resources 2 人的マネジメントと組織Ⅱ					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	1	中村 真	
授業の目的						
社会人に求められる基礎的な力を習得し、マネージャーとして交渉力や調整力を発揮するするために、人間の行動の仕組みを理解し、日常生活におけるセルフコントロールと、他人との関わり方を効果的なものにする方法を学び身に付けていく。						
授業の到達目標						
(1) 企業の仕組みを理解し、出された指示に対して肯定的に捉える力を持つ。 (2) 依存ではなく自立した状態を作れる。 (3) 否定的な見方から客観的・肯定的視点に移行できる。 (4) 協働の概念を理解し、プロジェクトチームの一員として行動できる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義	○	演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業		
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計
レポート			10%	20%		30%
途中課題			10%	20%		30%
ワークショップ実践			5%	15%	10%	30%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
ビジネス選択理論能力検定3級公式テキスト プリント資料、演習課題（講師作成）						



シラバス (授業概要)					年度	2024年度
					科目コード	R2-K31
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Sales Management 2 営業マネジメントⅡ					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	1	山田 穎二	
授業の目的						
<p>マネジメントとは「組織に成果をあげさせるもの」。組織（CAD）の使命を知り、組織の使命から顧客の求めている商品を作り、価格や販売方法など総合的に考え利益について考えます。  「誰に・どのような価値を・どのようにして提供するか」を習得するために考察します。</p>						
授業の到達目標						
(1) 正しい日本語で記述できる (2) マネージメントの基本を習得できる (3) 製造業にとってのマネージメントを習得できる (4) マネージメントにおける商品を知ることができる						
授業方式						
対面	<input type="radio"/>	ライブ型	<input type="radio"/>	オンデマンド型		
授業形態						
講義	<input type="radio"/>	演習		実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	<input type="radio"/>	
その他						
成績評価の方法						
評価観点		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度	配点計	
評価項目						
定期テスト（筆記）		40%			40%	
随時テスト（筆記）		50%			50%	
受講態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
なし						



シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R2-K34			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Machinaly Control Practical Use 機械制御応用					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	60	2	宮木 孝・岡田 靖志	
授業の目的						
<p>前半では、機械制御_基礎で学んだ基本機能を組み合わせて発展させたSTEM教育を目指す。実習では、各種センサーを組み合わせたり、複数のシステムと連動させたりする仕組みを考え、それを実現させるものづくり実習を行ない、組込み型プログラムの理解を深めていく。</p> <p>後半では、制御用コンピュータ「シーケンサ」のプログラムと制御方法の基本技術を習得する。</p>						
授業の到達目標						
<p>I (1)状況にあったセンサーを選択することができる。  (2)複数のセンサーやモーターを連動させることができる。  (3)相手のしくみと連携できる方法を考え、調整することができる。</p> <p>II (1)パソコンを使用して、ラダー図やプログラムの作成ができる。  (2)作成したプログラムをシーケンサに転送できる。</p>						
授業方式						
対面	○	ライブ型		オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション	○	
ロールプレイ		PBL		反転授業	○	
対話・議論型授業	○	調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了時テスト(筆記)		50%			50%	
課題		20%	20%		40%	
受講態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
<p>I. テキスト: micro:bit ではじめるプログラミング (オライリー・ジャパン)</p> <p>II. テキスト: リレーとシーケンサ  教材等: プログラム開発用パソコン、開発シミュレータ、シーケンサ実習機材</p>						



授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
I. micro:bitによる制御装置			
1. micro:bit でライトレースする	8		○
2. micro:bit で連携した仕組みづくり	12		○
3. 作品プレゼンテーション	8	○	○
II. シーケンサによる制御装置			
1. 自己保持回路	2		
2. インターロック回路	2		
3. タイマ回路	4		
4. カウンタ回路	4		
5. 信号機の制御	6		
6. エアシリンダの制御		○	△
6-1 1本シリンダの往復運転	4		
6-2 2本シリンダの交互運転	6		
7. 修了試験	2	○	△
<b>その他</b>		<b>関連科目</b>	
この科目は、実務経験のある教員が担当する科目である。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アルゴリズム</li> <li>・ 機械制御_基礎</li>   <li>・ 制御プログラミングⅠ （リレーシーケンス）</li> <li>・ 制御プログラミングⅡ （シーケンサ）</li> </ul>	

シラバス (授業概要)					年度	2024 年度
					科目コード	R2-K36
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Control Programming 2 制御プログラミングⅡ					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	前期	必修	30	1	岡田 靖志	
授業の目的						
1年次に学習したリレーシーケンスを基に、制御用コンピュータ「シーケンサ」のプログラムと制御方法の基礎技術を学習する。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・シーケンサ用のラダー図を読み書きできる。</li> <li>・シーケンサの基礎命令語を理解し、ラダー図をプログラムに変換できる。 また、プログラムからラダー図が書ける。</li> <li>・課題演習のラダー図が書ける。</li> </ul>						
授業方式						
対面	<input type="radio"/>	ライブ型	<input type="radio"/>	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	<input type="radio"/>	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	<input type="radio"/>	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了時テスト (筆記)		50%			50%	
随時テスト (筆記)		40%			40%	
受講態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
テキスト：リレーとシーケンサ 教材等：プログラム開発用パソコン、開発シミュレータ、シーケンサ実習機材						



シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R2-K40			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Machinaly Computer Aided Desing_Foundation CAD応用					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	90	3	山田 隆博	
授業の目的						
<p>昨今、ものづくりにおいて、CADは欠かせないツールとなっている。 この授業では、世界標準となっているCADソフト Autodesk 社のAutoCAD (2次元) を使用して、CADによる図面作成の習得を目指す。</p>						
授業の到達目標						
<p>(1) 設計図が読めること。 (2) 設計図を見て、自立して正確に作業ができること。</p>						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業	○	
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点	知識 技能	思考 判断 表現	関心 意欲 態度	配点計
修了時テスト (課題)			50%			50%
課題提出 (作品)			40%			40%
受講態度					10%	10%
使用テキスト・教材						
・ 演習課題 (オリジナルプリント)						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. 習得したコマンドの確認・プリント	2	○	
2. 高度な作図練習・プリント	6		
断面図の作図	8		
補助投影図の作図	8		
省略のある作図・対象図形・中間部分の省略	8		
ねじの作図	8		
歯車の作図	8		
寸法公差の作図	8		
幾何公差の作図	8		
表面性状の作図	8		
部品図と組立図の作成	18	○	○
<b>その他</b>		<b>関連科目</b>	
※実務経験のある教員が担当する科目である。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎製図</li> <li>・機械制御_応用</li> <li>・CAD基礎</li> <li>・CAD応用</li> </ul>	

シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R2-K42			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Manufacturing Exercise ものづくり演習					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	150	5	岡田 靖志	
授業の目的						
NC工作機械を動かすためのプログラム作成法について学習する。フライス系(マシニングセンタ)工作機械を制御するGコード、M機能等についてシミュレーションと試作を行いながら習得していく。また、1年時より学習した内容をもとに、CADによる設計から工作機械を使った試作までを行う。						
授業の到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>加工図面からNCプログラムを作成し、シミュレーションを行いながら動作の確認を行う。</li> <li>オリジナルのネームプレートの加工図面をCADで作成し、プログラムの作成をする。</li> <li>シミュレーション完了後、実際に加工を行う。</li> <li>基本的な加工組立が出来る。</li> </ul>						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク		フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL		反転授業		
対話・議論型授業		調査学習		教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
修了時テスト(筆記)		50%			50%	
課題提出(作品)		40%			40%	
受講態度				10%	10%	
使用テキスト・教材						
テキスト：入門NCプログラミング 教材等：プログラム開発用パソコン、開発ソフト、NC加工機						

授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. NC工作機械と座標系	3		
2. 位置決めG00と直線切削G01	3		
2-1 プログラム演習1	2		
2-2 プログラム演習2	2		
3. 円弧切削G02、G03	4		
3-1 プログラム演習3	2		
3-2 プログラム演習4	2		
3-3 プログラム演習5	2		
3-4 プログラム演習6	2		
4. 工具径補正G40、G41、G42	4		
4-1 プログラム演習7	2		
4-2 プログラム演習8	2		
4-3 プログラム演習9	2		
4-4 プログラム演習10	2		
4-5 プログラム演習11	2		
4-6 プログラム演習12	2		
5. 中間試験	2	○	△
6. ネームプレートの作成		○	△
6-1 CADによる図面設計	8		
6-2 プログラム作成	6		
6-3 シミュレーション	2		
6-4 NC機械加工	4		
7. ものづくり演習			
7-1 CADによる設計、部品図の作成	30		
7-2 工作機械による加工	40		
7-3 組立て及び修正	10		
7-4 動作確認	10	○	△
<b>その他</b>	<b>関連科目</b>		
この科目は、実務経験のある教員が担当する科目である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎製図</li> <li>・製造技術</li> <li>・CAD基礎</li> <li>・CAD応用</li> </ul>		

シラバス (授業概要)		年度	2024 年度			
		科目コード	R2-K44			
時間数は45分換算						
授業科目名					学科・コース	
Qualification test measures 2 資格検定対策Ⅱ					国際IT・CAD科	
履修学年	履修学期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員	
2	通年	必修	90	3	山田 隆博	
授業の目的						
CADを利用するための知識を持ち、さらに図面を正しく理解してCADを利用した作図を効率的にこなすことができる技能を証明できる試験制度として、2次元CAD利用技術者試験がある。このファーストステップとして「基礎」ランクがある。就職で有利にたつ資格を得るために、合格をめざす。						
授業の到達目標						
(1) CADシステムの知識と機能を理解している。 (2) CADシステムのプラットフォームについて理解している。 (3) 製図の知識を理解している。 (4) 図形の特徴を理解している。 (5) 2次元CAD利用技術者試験基礎に合格することができる。						
授業方式						
対面	○	ライブ型	○	オンデマンド型		
授業形態						
講義		演習	○	実験・実習・実技		
アクティブ・ラーニング						
グループワーク	○	フィールドワーク		プレゼンテーション		
ロールプレイ		PBL	○	反転授業	○	
対話・議論型授業		調査学習	○	教えあい授業	○	
その他						
成績評価の方法						
評価項目		評価観点			配点計	
		知識技能	思考判断表現	関心意欲態度		
検定試験 (IBT) または修了時テスト (筆記)		40%	30%		70%	
随時テストおよび課題 (Forms)		10%		10%	20%	
受講態度				5%	5%	
出席状況				5%	5%	
使用テキスト・教材						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CAD利用技術者試験2次元公式ガイドブック</li> <li>・ やさしい機械図面の見方・描き方 (オーム社)</li> <li>・ 三角定規とコンパス</li> </ul>						



授業内容・授業計画			
内 容	時間	課題 試験	評価
1. CADシステムの知識と機能			
1-1. CADシステムの概要と機能	2		
1-2. CADシステムの基本機能	4		
1-3. CADの作図データ	2		
1章の確認テストとフィードバック	8	○	
2. CADシステムのプラットフォーム			
2-1. CADシステムとハードウェア	2		
2-2. CADシステムとソフトウェア	2		
2-3. ネットワークの知識	2		
2-4. 情報セキュリティと知的財産	2		
2-5. コンピュータの操作	2		
2章の確認テストとフィードバック	8	○	
3. CADシステムの関連知識			
3-1. CADシステムの運用・管理と課題	3		
3-2. 3次元CADの基礎知識	3		
3章の確認テストとフィードバック	4	○	
4. 製図の知識			
4-1. 製図一般	2		
4-2. 製図の原理と表現方法	4		
4章の確認テストとフィードバック	8	○	
5. 図形			
5-1. 三角形	2		
5-2. 四角形と多角形	4		
5-3. 円	2		
5-4. 三平方の定理	4		
5-3. 三角関数	2		
5-3. 立体図形	2		
5章の確認テストとフィードバック	8	○	
6. 模擬試験と検定試験	8	○	○
<b>その他</b>	<b>関連科目</b>		
この科目は、実務経験のある教員が担当する科目である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機械CAD基礎</li> <li>・ 機械CAD応用</li> <li>・ ものづくり演習</li> </ul>		